

★メスガキ魔法少女チンカスるびい♪

	トラック01
るびい	「そこのお兄さん！ 止まってください！-」
るびい	「急に声をかけてしまつてごめんなさい」
るびい	「ただお兄さんにいくつか聞きたいことがあつて…」
るびい	「え？ るびいは誰、ですか？」
るびい	「つて、ひゃわわ！ るびいってば名乗りを忘れちゃつてたよお……」
るびい	「ん、コホン」
るびい	「るびいは密かに街の平和を守る魔法少女、マジカルるびい♪」
るびい	「皆に迷惑をかける悪くい人はるびいがお仕置きしちゃうんだから♪」
るびい	「つて、ううう！ お兄さんってば信じてないでしょー！-」
るびい	「むうう！ いいもん！ どうせるびいと出会った事は記憶から消しちゃうんだし」
るびい	「つて、そうじゃなくつて！-」

「最近るびいみたいに小さな女の子がいなくなっちゃう事件の犯人さんって」

「お兄さんですよね？」

「言い逃れはできないですよ？」

「証拠だって揃ってるんですから」

「なのでお兄さん」

「どうか大人しくるびいにお仕置きされてください！」

「んゝ！ えゝゝゝいッ！！ って、ふえ？」

「お仕置きされる前にお母さんと電話がしたい、ですか？」

「むゝゝ、分かりました」

「ちょっとだけですょ？ 電話が終わったら大人しくるびいに成敗されてくださいね？」

「あ、でも念の為、本当にお母さんと電話してるかどうか確認させて……って、ふえ？」

「はえ？ お兄さんのスマホ、何か変な画像が映って……って、あ……」

るびい 「何、これ……う……るびい……頭おかしくなつて
……う……あう……んあ……」

るびい 「だ、ダメ……るびい……魔法少女なのに……うゝ
……あ……あ……あ……ああ……」

るびい 「……………」

るびい 「……はい……るびいの名前は……姫川るりです」

るびい 「でも、るびいの本当の姿は、街の平和を守る魔法
少女、マジカルるびいで……」

るびい 「ふえ？ あ……そうだった……るびいはマジカル
るびい何かじゃなくて」

るびい 「お兄さん……うん、お兄ちゃん好みの、生意気
でお馬鹿さんで、チンカスが大好きな女の子……
……」

るびい 「メスガキ魔法少女、チンカスるびいです……」

るびい 「……ん……んゝ……って、あ、あれ？」

るびい 「るびい、何だかボーっとしちゃってたみたいで……
……」

るびい 「って、ああ！ お兄ちゃんってば、やっと見つけ
たー！」

るびい 「んもう！　こんなに臭いチンカスの匂い撒き散らしてー！」

るびい 「ん……クン、クンクン」

るびい 「うっ！？　くっさささ！　お兄ちゃんってば臭すぎだよぉ♪」

るびい 「こんなにチンカス臭い人が歩いてちや街の空気が汚染されちゃうんだよう？」

るびい 「街の平和を乱すお兄ちゃんは、このメスガキ魔法少女チンカスるびいが退治しちゃうんだから♪」

るびい 「覚悟しててね♪　お兄ちゃん♪」

	トラック02
るびい	「えへへ♪ お兄ちゃんってば、るびいをくんな厭らしいホテルに連れ込んだじゃって♪」
るびい	「もう♪ 本当にイケナイお兄ちゃんなんだから♪」
るびい	「今も♪ お兄ちゃんのこと♪」
るびい	「おちんぽからくっさくい香りがプンプンしてるよ〜?」
るびい	「ほーら♪ こうやって近づくと〜」
るびい	「クン♪ クンクン♪」
るびい	「うっわ〜♪ お兄ちゃんのおちんぽチンカス臭〜い♪」
るびい	「こんな臭いチンカス初めて〜♪」
るびい	「はあ〜♪ お兄ちゃんのおちんぽくっさ〜♪ お兄ちゃんのおちんぽチンカス臭〜い♪」
るびい	「でも安心して?」
るびい	「るびいはお兄ちゃんみたいなチンカスお掃除もできない、情けない男の人を退治する、チンカス魔法少女だもん♪」

るびい 「街の平和をチンカスから守る為に、責任をもって
お兄ちゃんのチンカス♪ お掃除してあげるね
♪」

るびい 「えへへ♪ さあ♪ お兄ちゃんの雑魚雑魚おちん
ぽさるん♪ 出てきておいで♪」

るびい 「って、ひやうツ!?!」

るびい 「わるる♪ お兄ちゃんのおちんぽ、先っぽまで汚い
皮に包まれて、毛もモジャモジャしてて」

るびい 「お兄ちゃんのおちんぽって、もしかして真性包茎
さんなの?」

るびい 「ぶ♪ ぶぶ♪ ぶぶぶぶるる♪」

るびい 「えるる♪ そっかるる♪ お兄ちゃんってば、自分で
おちんぽの皮も捲れない真性包茎さんだったんだ
るる♪」

るびい 「へるる♪ そうなんだるる♪ それならるる」

るびい 「お兄ちゃんって、もう何年もおちんぽの中洗えて
ないの?」

るびい 「催眠アプリでちっちゃな女の子を誘拐して、たく
さんおまんこの中で射精してきたのに♪」

「出した精液はぜくんぶおちんぽの皮の中に溜まっちゃって♪」

「ぜくんぶチンカスになっちゃって♪」

「お兄ちゃんってさ」

「女の子の子宮に直接おちんぽぴゅっぴゅした事ないでしょう？」

「女の子の事、孕ませた事ないんでしょう？」

「ぶぶぶ」 お兄ちゃんってば情けなしい♪」

「でも安心して？ お兄ちゃんが長年ため込んだくっさしいチンカス♪ るびいが全部綺麗にしてあげるね♪」

「ほーら♪ お兄ちゃん♪ こっち向いて」

「んー……ちゅ♪」

「ちゅ♪ ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

「えへへ♪ どう？ るびいのファーストキスだよ♪」

「ロリコンなお兄ちゃんならるびいとキスするだけで、んー……ちゅ♪」

「やっぱり♪」

るびい 「お兄ちゃんの包茎おちんぽ♪ どんどん大きくなってるぅ♪」

るびい 「このままるびいがいっぱいキスしてあげるから、もっともとおちんぽ大きくしようね♪」

るびい 「はあむ♪ ちゅ♪ んゝ、ちゅ♪ ぷちゅ♪ ちゅ、んゝ……ちゅ♪」

るびい 「んちゅ、ちゅ、ぷはあ♪ ん、はうゝ♪」

るびい 「お兄ちゃんってば、おちんぽだけじゃなくてお口も臭すぎるよゝ」

るびい 「歯の間に食べカスが残っちゃってて」

るびい 「ぷぷ♪ お兄ちゃんってば歯磨きもできないキモ豚さんだったんだね♪」

るびい 「はあゝ♪ お兄ちゃんのお口くっさゝい♪ お兄ちゃんの口臭臭すぎゝい♪」

るびい 「もう♪ ほゝらお兄ちゃゝん♪ るびいの甘い唾液でお口キレイキレイしまちようねゝい♪」

るびい 「んゝ……くちゅくちゅくちゅくちゅ♪ ふあゝい♪ お兄ひゃゝん♪」

るびい 「ああゝゝ……んむう♪ んちゅ♪ じゆるじゆる♪ んちゅ♪ じゆるるるゝゝ……ちゅ♪」

るびい 「んむう♪　じゆるじゆるじゆる♪　んちゅ
♪　んゝ、ぷはあ♪　はあ、はあ」

るびい 「えへへ♪　お兄ちゃんの唾液くっさゝい♪　はあ
ゝくっさゝ♪　お兄ちゃんのお口くツツさゝゝ
ゝい♪」

るびい 「こんな臭い唾液を女の子に飲ませるだなんて♪」

るびい 「お兄ちゃんは本当に救いようのないキモ豚さんだ
ねゝ♪」

るびい 「ぶぶ♪　お兄ちゃんのキモ豚さん♪　はあ♪
キッモ♪　キモ♪　キモ♪　キモ♪　キつもゝ
い♪」

るびい 「んゝ？　あれゝ？　あれあれゝ？　お兄ちゃ
ん？」

るびい 「どうして気持ち悪いって言われておちんぽ大きく
してるのゝ？」

るびい 「そんなにるびいに馬鹿にされて嬉しかったの
ゝ？」

るびい 「ぶぶぶぶゝゝ♪　そうなんだゝ♪　るびいに馬鹿
にされるの、そんなに好きなんだゝ♪」

るびい 「えへへ♪　いいよ？　そんなに好きならゝ」

るびい

「もっとお兄ちゃんの事、馬鹿にしてあげる♪」

るびい

「ほくら♪ キモ豚さくらん♪ あらむ♪
ちゅ♪ ちゅぷ♪ ちゅ、ちゅ♪」

るびい

「やあん♪ キモ豚のお口くっさるい♪ キモ豚
の唾液まっずるい♪」

るびい

「ん、ちゅ♪ れるれるれ……じゅるる♪
んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

るびい

「お兄ちゃんってば、お馬鹿なワンちゃんみたいに
ハアハアしちゃってるね♪」

るびい

「んもう♪ 気持ち悪すぎてるびい、鳥肌たつき
ちゃったよお♪」

るびい

「ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ れるれるれ
……んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

るびい

「えへへ♪ お兄ちゃん？ さっきからるびいの
おっぱいばかり見てるのバレバレだよ？」

るびい

「ぶぷ♪ だって、ずっと気持ち悪い視線向けら
れてるんだもん♪」

るびい

「気付かれないと思ってたの？」

るびい

「本当にお馬鹿さんなんだね♪ キモ豚お兄ちゃん
♪」

るびい 「そんななるびいのちっちゃなおっぱい見たい
だあ」

るびい 「るびいの膨らみかけの、お子様おっぱい♪」

るびい 「んもう♪ 鼻息荒すぎだよお♪」

るびい 「うん♪ いいよ？ お兄ちゃんには特別に、る
びいのお子様おっぱいみせてあげるね♪」

るびい 「ん♪ お兄ちゃん♪ いくね？」

るびい 「こうやって、魔法少女の衣装を捲ってえ♪」

るびい 「ん、はう〜♪」

るびい 「えへへ♪ お兄ちゃん♪ るびいのおっぱい、お
外に出しちゃったあ♪」

るびい 「って、わわ♪ お兄ちゃんってばるびいのおっぱ
い見すぎだよ〜♪」

るびい 「はあ、はあ、やあん♪ お兄ちゃんのお顔、すっ
ごく怖いよお♪ 気持ち悪いよお♪」

るびい 「そんな怖いお兄ちゃんの視線は〜♪ るびいの
キス顔でふさいじゃうんだから♪ はあ〜む♪」

るびい 「んちゅ♪ ちゅ〜……じゅるじゅるじゅるじゅる
♪」

るびい 「んむう♪ お兄ひゃ〜ん♪ んちゅ♪ れろれろ
れろれろ♪」

るびい 「お兄ひゃんのお口の中に入るびいのベロを入れふえ
〜……ん〜ちゅ♪ れろれろれろれろ♪」

るびい 「んむう♪ るびいのお口で歯磨きしてあげりゅ♪
んちゅ♪ れ〜ろれろれろ♪」

るびい 「んぷ♪ んちゅ♪ じゅるじゅる♪ ん♪ お兄
ひゃん♪ お兄ひゃ〜ん♪」

るびい 「ん〜♪ じゅるじゅるじゅるじゅる♪ じゅる
じゅるじゅるじゅる♪」

るびい 「んぷ♪ んぷぷぷ♪ んむ……ん♪ ぷはあ♪
はあ、はあ♪」

るびい 「えへへ〜♪ るびいのお口、お兄ちゃんの唾液で
いつふあ〜い♪」

るびい 「これを〜♪ るびいの甘い唾液と一緒に混ぜ混
ぜひて〜♪」

るびい 「ん〜♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪ くちゅく
ちゅくちゅくちゅ♪」

るびい 「んむう♪ ん♪ いへへ いへへ いへへ いへへ
♪」

るびい

「ぶはぁ♪ はぁ、はふう♪」

るびい

「えへへ♪ お兄ちゃん見てみて〜♪ んえ〜♪」

るびい

「どう？ お兄ちゃんのくっさい唾液♪ ぜ〜んぶ
飲み干しちゃったよ？」

るびい

「これでもうお兄ちゃんのお口は綺麗になったね
♪」

るびい

「えへへ♪ 流石るびい♪ チンカスの前にくっさ
いお口を退治しちゃった〜♪ やった〜♪」

るびい

「ほ〜ら♪ お兄ちゃ〜ん♪ きちんとお口綺麗に
出来た〜ご褒美にもう一度キスしてあげる♪」

るびい

「ん〜……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅう〜……
ちゅ♪ れろ、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

るびい

「んへへ♪ お兄ちゃんのキス顔ってほんっと気持
ち悪いね〜♪」

るびい

「るびいはただ臭くて汚いお兄ちゃんを退治して
だけなのに幸せそうな顔しちゃって〜♪」

るびい

「もしかしてるびいの事、恋人か何かと勘違いし
ちゃってるのかな〜？」

るびい

「ぶ。ぶ♪ お兄ちゃんってば馬鹿みたい〜い♪」

るびい 「るびいがお兄ちゃんみたいな小汚いキモ豚の恋人になる訳ないのにね〜♪」

るびい 「ん〜ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

るびい 「って、あれ？ お兄ちゃん？ 何だかおちんぽブルブル震えてきて……」

るびい 「ふえ？ もう出るって……ええ〜♪ 嘘うそ〜♪」

るびい 「お兄ちゃんってば、触られてもいないのにおちんぽイっちゃいそうなの〜？」

るびい 「おちんぽぴゅっぴゅしちやいそうなの〜？」

るびい 「やあん♪ やだやだ〜♪」

るびい 「るびい、今魔法少女の衣装着てるのにい♪ このままだとお兄ちゃんのくっさ〜いチンカスザ〜メンで汚されちゃうよ〜♪」

るびい 「やだあ♪ だめだめえ〜♪ お兄ちゃん許してえ〜♪」

るびい 「お兄ちゃんのチンカスザ〜メンるびいにかけないでえ〜♪」

るびい 「るびいの綺麗な体が汚れちゃう♪ お兄ちゃんのザ〜メンで犯されちゃう♪」

「やあん♪ ダメだよお♪ おちんぽ出しちゃだめえ♪」

「あうゝ♪ ダメなのにい♪ やあ♪ おちんぽ出る♪ おちんぽ出ちゃう♪」

「魔法少女にぶっかける♪」

「メスガキるびいにぶっかけちゃう♪」

「イク♪ イク♪ イク♪ イク♪ イク♪
♪ イク♪ イクうゝ♪」

「びゆるる♪」

「びゆるるる♪」

「びゆるるるるうゝゝゝゝゝ♪」

「きやゝゝん♪」

「やあ♪ こんなにいっぱい♪」

「んあ♪ やあん♪ お兄ちゃんのザーメンぴゅぴゅってかかって♪」

「お顔にも、おっぱいにもこんなに♪」

「ん、あうゝ♪ やあゝ♪ 臭いよゝ♪ 汚いよゝ♪」

るびい

るびい

るびい

「はあ、はあ、んもうゝ！」

「るびいみたいなちやな女の子にぶっかけるなんて、絶対に許さないんだからあ♪」

「覚悟しててよね♪ キモ豚お兄ちゃん♪」

	トラック03
るびい	「わぁ♪ お兄ちゃんのお茎おちんぽ♪ 出したて ザーメンでグッチャグチャだね♪」
るびい	「それにチン皮の中ですっごく勃起してて♪」
るびい	「ぶぶ♪ チン皮に締め付けられておちんぽ痛そう ♪」
るびい	「ねえねえお兄ちゃん？ おちんぽ辛い？ 早く チン皮から出たい？」
るびい	「でもでもお♪ お兄ちゃんのおちんぽは真性包茎 だからぁ♪」
るびい	「お兄ちゃんがどれだけ頑張っても、チン皮から出 られないんだよ？」
るびい	「ぶぶぶう♪ お兄ちゃんのおちんぽは情けないね ♪ 雑魚雑魚おちんぽだね♪」
るびい	「えへへ♪ 安心して？ るびいはお兄ちゃんみた いな残念おちんぽを退治する魔法少女だもん♪」
るびい	「るびいのチンカス魔法を使えば、お兄ちゃんのお 茎も綺麗に剥いてあげられるんだから♪」
るびい	「よく見てて？ 今から魔法でお兄ちゃんの汚いチ ン皮を大きく広げてあげる♪」

るびい

「ううゝゝん……ええゝゝゝいッ！」

るびい

「えへへ♪ どう？ お兄ちゃんのチン皮、だるゝんって広がってきたでしょ♪」

るびい

「今ならお兄ちゃんがムキムキできなかったおちんぽの皮♪ 綺麗に剥けると思うよ」

るびい

「こんな風にゝるびいのちっちゃな指先でゝ♪」

るびい

「お兄ちゃんの汚いおちんぽの皮♪ 剥いちゃうね♪」

るびい

「ほゝら♪ お兄ちゃゝゝん♪」

るびい

「いくよゝ？」

るびい

「やあん♪ チン皮剥ける♪ チン皮剥けちゃう♪」

るびい

「生意気なメスガキにチン皮引っ張られる♪ 包莖童貞奪われちゃう♪」

るびい

「おちんぽ出る♪ おちんぽ出ちゃう♪」

るびい

「ああん♪ 出る♪ 出る♪ 出る♪ 出る♪」

るびい

「おちんぽ出る♪ おちんぽ出りゆうゝゝゝゝ♪」

るびい 「わあ〜♪ お兄ちゃんのおちんぽ出てきちゃった〜♪」

るびい 「えへへ♪ どうか？ 包茎童貞捨てられて嬉しい？ るびいにチン皮剥いて貰えて気持ちいい？」

るびい 「って、クン、クンクン」

るびい 「ん、お♪ 、お♪ んぐう♪ はあ、はあ♪」

るびい 「うええ〜♪ くツツさ〜〜い♪ お兄ちゃんのおちんぽ臭すぎい〜♪」

るびい 「んもう♪ お兄ちゃん？」

るびい 「いくら真性包茎でチンカスが洗えないからって、こんなにため込んでたら病気になっちゃうよ？」

るびい 「はあ♪ クンクン、んほ、お♪ お兄ちゃんのチンカスクっさ〜い♪」

るびい 「あう〜♪ チンカス♪ お兄ちゃんのチンカスう〜♪」

るびい 「ねえねえ？ お兄ちゃ〜ん？ この汚くてくっさ〜いチンカスう〜……」

るびい 「るびいが味見してもいい？」

るびい 「うん♪ そうだよ？」

「お兄ちゃんとキスした、るびいのあま〜いお口オ
ナホで〜♪ お兄ちゃんのチンカスをくちやく
ちゃ食べちゃうの♪」

「だって、るびいはチンカス退治専門の魔法少女な
んだよ？」

「ティッシュやお水で洗うんじゃないくて、るびいの
体でチンカス退治しなきゃだもん♪」

「だからね？」

「チンカス塗れの汚いおちんぽ♪ 触っちゃう
ね？」

「それ♪ チンカスクちゆくちゆ♪ チンカスク
ちゆくちゆ♪」

「わあ♪ るびいの指先にチンカス付いちゃったあ
♪」

「はう〜♪ これがお兄ちゃんの生チンカスう♪」

「ん〜♪ クン♪ クンクン♪」

「ん、お♪ 、お♪ 、お〜♪」

「、お、お兄ちゃ〜ん♪ これ凄いよお♪」

「チンカスが臭すぎて、るびい気絶しちやいそうだ
よ〜♪」

るびい 「あうゝ♪ 今からるびい、こんなに臭くて汚いチンカス食べちゃうんだよ？」

るびい 「これも全部、お兄ちゃんが一人でチンカスお掃除できないせいなんだから反省してよね？」

るびい 「ん、それじゃあ♪」

るびい 「お兄ちゃんのくっさい熟成チンカス♪ いただきまゝゝす♪」

るびい 「はあゝ……む♪」

るびい 「んむ♪ くちゆくちゆくちゆくちゅ♪」

るびい 「ん♪」「く♪」「く♪」「く♪」「く♪」

るびい 「ぷはあ♪ ん、お♪、お♪、おゝ♪」

るびい 「これ、ヤバッ……んほ♪、お♪、おゝ♪」

るびい 「たった一口でるびいのお口、チンカス臭くなって……ん、お♪、お♪、おほゝ♪」

るびい 「ダメ……イグ♪ チンカスでイグ♪ るびいっちゃう♪ チンカス食べただけでイグう♪」

るびい 「んほお♪ イグ♪ イグ♪ イグ♪ イグう♪」

るびい 「チンカスでイグ♪ お兄ちゃんのチンカスでイツぎゅううううゝゝゝ♪」

るびい 「んほおお♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

るびい 「んふう♪ ふう♪ ふう♪ お、お兄ちゃ〜ん♪」

るびい 「お兄ちゃんのチンカス凄すぎるよお♪」

るびい 「こんなに最低な食べ物知らないよお♪」

るびい 「お〜♪ チンカスう♪ チンカス♪ チンカス♪ チンカスう♪」

るびい 「ねえねえ♪ お兄ちゃ〜ん♪」

るびい 「ん〜、ちゅ♪」

るびい 「あのね？ お兄ちゃんのチンカス、もう少しつまみ食いしてもいい？」

るびい 「だって、こんなに汚いチンカス、いつきに食べたらるびい、絶対気絶しちゃうもん♪」

るびい 「だからね？ 今の内にいっぱいチンカスハムハムして、慣れとかないといけないからあ♪」

るびい 「こーやって〜♪ 魔法少女の小さなお手々で〜」

るびい 「ほ〜ら♪」

るびい 「チンカスほじ、ほじ♪ チンカスほじ、ほじ♪」

るびい

「ん、やあ♪ 凄いよお♪」

るびい

「お兄ちゃんの熟成チンカス♪ こんなに採れ
ちゃった♪」

るびい

「うわあ♪ チン皮に残ったザーメンと溶け合っ
て、ねちよねちよしてて♪」

るびい

「はうゝ♪ チンカス臭すぎだよお♪」

るびい

「こんなの嗅いでたら、んぐ♪ 〠お♪ 〠おゝ♪」

るびい

「るびい、おかしくなるう♪」

るびい

「チンカスしか考えられないお馬鹿さんになっちゃ
うう♪」

るびい

「はあ、はあ♪ ん、お兄ちゃゝん♪」

るびい

「また耳元でチンカスクちゆくちゆしてあげるか
ら、るびいのお口の音、良く聴いててね？」

るびい

「いっくよう？ はあゝゝむ♪」

るびい

「んむ♪ くちゆくちゆくちゆくちゆ♪」

るびい

「ん♪ 〠く♪ 〠く♪ 〠く♪ 〠く♪」

るびい

「ぶはあ♪ ん、お♪ 〠お♪ 〠おゝ♪」

るびい 「うえゝゝ♪ お兄ちゃんのチンカス、くっさゝゝ
い♪」

るびい 「はあゝ♪ くっさゝ♪ チンカスくっさゝゝ♪」

るびい 「くっさ♪ くっさ♪ くっさ♪ くっさゝゝ♪」

るびい 「んへへ♪ でもるびい、今度はお漏らししなかつ
たよ？」

るびい 「どうせならこのままゝ……こゝ……っち♪」

るびい 「反対のお耳でも、お兄ちゃんのくっさいチンカス
♪ くちゅくちゅしてあげるね♪」

るびい 「それぞれ♪ 今度はおちんぽの裏側でガビガビに
乾いたチンカスをゝ♪」

るびい 「チンカスホジホジ♪ チンカスホジホジゝ♪」

るびい 「ぶぶ♪ お兄ちゃゝん？」

るびい 「もしかしてるびいにチンカスホジホジされて感じ
てるのゝ？」

るびい 「わゝ♪ 気持ち悪い♪」

るびい 「るびいにチンカス弄られて感じるなんて、お兄
ちゃんは本当に最低な人だねゝ♪」

るびい 「お兄ちゃん♪ んゝちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

るびい 「いいんだよ？ もっと気持ち悪いお顔、るびいに見せて？」

るびい 「ほらほら♪ チンカスホジホジ♪ チンカスホジホジ♪」

るびい 「わあ♪ お兄ちゃん見てみて♪ おちんぽから米粒みたいに大きなチンカス採れちゃった♪」

るびい 「はう♪ こんなに大きいチンカス初めてえ♪」

るびい 「るびい、きちんとごっくん出来るかな？」

るびい 「えへへ♪ お兄ちゃん♪ るびいがチンカスごっくんする音、よく聴いててね？」

るびい 「はあゝむ♪」

るびい 「んむ♪ くちゆくちゆくちゆくちゅ♪」

るびい 「ん♪ ぐく♪ ぐく♪ ぐく♪ ぐく♪」

るびい 「ぷはあ♪ ん、お♪ 、お♪ 、お♪ 」

るびい 「しゅ、しゅごいよお♪ チンカス大きすぎて、んむ♪ 喉に引っかけた♪」

るびい 「んほお♪ 、お♪ 、お♪ だ、ダメえ♪」

るびい 「るびい、魔法少女なのにい♪ これ、ダメ♪」

「負けちゃう♪ お兄ちゃんのチンカスに負けちゃう♪」

「ひぐう♪ イグ♪ イグイグイグイグイグイグイ
グイグうゝゝゝ♪」

「んツッ♪
ツきゅーっうっづっゝゝゝ」

「んほおおおおゝゝゝゝ♪」

「ん、お♪
お♪
お♪」

「やあ♪ お兄ちゃん聞かないでえ♪」

「るびいのお漏らしい♪ チンカスお漏らし聞かないでえ♪」

「お ♪ お ♪ お ♪ お ♪」

「んふう♪ふう♪ふう♪」

「あうゝ イつちやつたよお」

「お兄ちゃんのチンカスに負けちゃったよお」

「ううゝ！　んもう！　お兄ちゃん？　リベンジだよ！」

「次は絶対にチンカスに負けたりしないんだから！」

「ん、もう一度チンカスをホジホジしてえ」

るびい

「んゝ、えい！」

るびい

「チンカスホジホジ♪ チンカスホジホジ♪」

るびい

「今度はきちんとつくん出来るように、お兄ちゃん
の我慢汁でチンカスをよく溶かして♪」

るびい

「うん♪ 下品で臭い、特製チンカスジュースの出
来上がりだよ♪」

るびい

「これを舐めしゃぶるみたいにい♪」

るびい

「はあゝむ♪」

るびい

「んむ♪ くちゆくちゆくちゆくちゆ♪」

るびい

「ん♪ ！く♪ ！く♪ ！く♪ ！く♪」

るびい

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ♪ えへ♪ えへへへ
ゝ♪」

るびい

「やったゝ♪ チンカスぜゝんぶ！つくん出来
ちゃったあ♪」

るびい

「こんなにすぐチンカスが食べられるようになるな
んて♪」

るびい

「やっぱりお兄ちゃんのチンカスは雑魚雑魚だね
♪」

るびい

「メスガキ魔法少女チンカスるびい♪ チンカス完
全攻略だよ♪ えへへへ♪」

るびい 「チンカスも黄ばんでて臭かったけど、耳カスも…
…クン、クンクン」

るびい 「うえ〜♪ 耳カスくっさ〜♪ 耳カスくっさ〜
〜い♪」

るびい 「こんな臭い塊がウジャウジャしてるだなんて信じ
られな〜い♪ お兄ちゃんのお耳最悪う♪」

るびい 「今時小学生でも一人で耳掃除するのに……ぷぷ
♪ お兄ちゃんってば、ざっこ〜い♪」

るびい 「雑魚雑魚お兄ちゃん♪ キモ豚お兄ちゃん♪」

るびい 「はあ♪ ざっこ♪ ざっこ♪ ざっこ♪ ざっこ
〜♪」

るびい 「ん〜ちゅ♪ れろ、ちゅ♪」

るびい 「ん♪ お兄ちゃん♪ お兄ちゃん♪ ちゅ♪ れ
ろろろ♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ♪」

るびい 「んぱあ♪ はあ、はあ♪」

るびい 「うつわ〜♪ お兄ちゃんってば、お耳ちゅっちゅ
する度におちんぽピクピク震わせちゃって気持ち
悪〜い♪」

るびい 「ぷぷ♪ チンカスだけじゃなくて耳カスれろれろ
でも興奮しちゃうんだ〜♪」

るびい

「本当に救いようのない変態さんだね♪」

るびい

「ほくら♪ この変態♪ 変態お兄ちゃん♪ ロリ
コンお兄ちゃん♪」

るびい

「はあ♪ お兄ちゃんのお耳くっさ♪ ロリコン
のお耳くっさ♪」

るびい

「えへへ♪ ねえお兄ちゃん？」

るびい

「もっとお耳の奥まで舐めてほしい？」

るびい

「うん♪ いいよ♪ お耳の奥の奥まで♪ るびい
が耳カスぜくんぶ舐め取ってあげるね♪」

るびい

「ほくら♪ いっくよう？」

るびい

「お兄ちゃるるん♪ んれるるろれろろ♪」

るびい

「んはあ♪ はあ、はあ♪ やあ♪ お兄ちゃんっ
てばあ♪ んちゅ♪」

るびい

「いきなりるびいのお尻モミモミしちゃあるん
♪」

るびい

「ん、あうる♪ ダメだよ♪」

るびい

「るびいのお尻い♪ 普通の女の子と違ってむっち
りしてるから恥ずかしいよお♪」

るびい

「って、嘘お♪ 太ももまでえ♪ やあん♪」

るびい

「やあん♪ 何これ何これ♪」

るびい

「お兄ちゃんの耳カス臭すぎだよお♪」

るびい

「すっごく黄ばんで湿ってるしい♪ 歯の間に挟まって食べづらいしい♪」

るびい

「このままだとるびい病気になっちゃうよお♪」

るびい

「やあん♪ お兄ちゃんの耳カスくっさくっさい♪」

るびい

「はあく♪ くっさ♪ くっさ♪ くっさ♪
くっつつさくっさ♪」

るびい

「チンカスも耳カスもお♪」

るびい

「るびいみたいなちっちゃい女の子にお掃除しても
らわなくちゃ綺麗にできないなんてえ♪」

るびい

「お兄ちゃんってばいくらなんでも雑魚すぎだよお♪」

るびい

「ぷぷぷ♪ お兄ちゃん雑魚すぎい♪ お兄ちゃん
キモすぎい♪」

るびい

「つて、やあん♪ やだやだあく♪」

るびい

「キモ豚お兄ちゃんにるびいのお尻握られちゃたあく♪」

るびい 「これじゃあるびい、お兄ちゃんから逃げられない
よお♪」

るびい 「ね〜ね〜♪ お兄ちゃ〜ん♪ どうしたらるびい
の事離してくれるのお？」

るびい 「ね〜ね〜♪ 教えて〜♪ お兄ちゃ〜ん♪」

るびい 「ん〜？ チンカス魔法少女のるびいに〜、耳カ
スとチンカスを一緒に食べて欲しいのお？」

るびい 「うつわ〜♪ お兄ちゃんってば最ッ低〜♪」

るびい 「でもでもお♪ るびいは今あ♪ 悪〜い変態不審
者さんに捕まって逃げられないからあ♪」

るびい 「お兄ちゃんの言う事に逆らえないのお♪」

るびい 「だからあ♪ お兄ちゃんの耳カスとチンカス♪
一緒に食べてあげるね♪」

るびい 「そ〜れ♪ まずはチン皮に張り付いたくっさいチ
ンカスを〜……え〜い♪」

るびい 「わあ♪ すっご〜い♪ また米粒みたいなチンカ
ス採れちゃったあ♪」

るびい 「クン♪ クンクン♪」

るびい 「あは♪ くっさ〜い♪ お兄ちゃんのチンカス
くっさいよお♪」

るびい

「えへへ♪ 次はお耳から直接う♪」

るびい

「はあゝむ♪」

るびい

「んちゅ♪ えへへ♪ 耳カス採れちゃったあ
♪」

るびい

「そしたらあ♪ お口の中の耳カスとお♪ 指に付
いたチンカスを♪」

るびい

「はあゝむ♪」

るびい

「んむ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪ くちゅく
ちゅくちゅくちゅ♪」

るびい

「んむう♪ やあ♪ まだ「つくんしてにやいの
にい♪」

るびい

「んほお♪ お♪ お♪」

るびい

「イグう♪ こんなの「つくんしちゃったらいっ
ひやうのお♪」

るびい

「ん♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪ くちゅく
ちゅくちゅくちゅ♪」

るびい

「んむ♪ イくね？ チンカシュと耳カシュのミッ
クスジューシュ♪ 「つくんしちゃうね？」

るびい

「ん♪ 「くへ♪」「くへ♪」「くへ♪」「くへ♪」

るびい 「ん？ もっとお耳の奥までれろろして欲しいの？」

るびい 「ええゝ♪ でもでもゝ♪ るびい、さっきは耳力スでイカされちゃったからお耳舐めるの怖くなっちゃったかもお♪」

るびい 「だけどお♪ もしお兄ちゃんがどうしてもるびいに舐めて欲しいよゝってオネダリしてくれたゝ」

るびい 「るびい、お兄ちゃんの汚いお耳、舐めたくなくなっちゃうかもしれないよお？」

るびい 「って、うつわゝ」

るびい 「ええ……お兄ちゃんのオネダリ気持ち悪いよお……」

るびい 「うわ……キツモゝい……あうあう……こんな気持ち悪い人、るびい初めてみちやったあ……」

るびい 「はあ……キツモ♪ お兄ちゃんきつもゝい♪」

るびい 「ぶぶ♪ お兄ちゃんのロリコンさん♪ 変態さん♪ キモ豚さん♪」

るびい 「救いようのないダメダメお兄ちゃんは、るびいのお耳ペロペロで退治されちゃえゝ♪」

るびい 「はあゝむ♪」

るびい 「ぷはあ♪ んほお♪ やあん♪ ダメダメえ
♪」

るびい 「こっちの耳カスも臭すぎてえ♪ るびい、魔法少
女が出しちやいけない声出ちやうよお♪」

るびい 「はう♪ 耳カスくっさうい♪ はあ♪ 耳カス
くっさ♪ 耳カスくっさう♪」

るびい 「ほらほらあ♪ お兄ちゃんも自分の耳カスの香り
を嗅いでみて？」

るびい 「すう……はあ……はあ……はあ……はあ……
はあ……はあ……」

るびい 「どう？ とんでもない匂いでしょ……って、
ふえ？ お兄ちゃん？ 何で喜んでるの？」

るびい 「もしかしてるびいのお口の匂いで興奮しちゃった
の？」

るびい 「うつわ♪ お兄ちゃんってはいくら何でもキモ
すぎるよ♪」

るびい 「はあ♪ キモ♪ キモ♪ キモ♪ キモ……い
♪ んれ……ろれろろ♪」

るびい 「ん、あん♪ やあ♪ お兄ちゃん……ん♪ そ
こ、るびいのお股、触っちゃダメだよお♪」

るびい

「やあ♪ バレちゃったあ♪」

るびい

「お兄ちゃんのくっさ〜い耳カスとお♪ 汚いチンカスペロペロでお漏らししちゃってるのバレちゃったよお♪」

るびい

「ん、ああん♪ やあ♪ お兄ちゃん、ん♪ あん♪ ダメえ♪」

るびい

「るびいのおまんこ、それ以上触ったら本当に怒っちゃうんだからね？ って、んほお♪」

るびい

「お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

るびい

「クリちゃん弄っちゃ、んほお♪ も、もう！ お兄ちゃんがその気ならるびいだって〜！」

るびい

「そろれ♪ おちんぽの段差に隠れたチンカスを〜、ペリペリ〜♪」

るびい

「わあ♪ お兄ちゃんのチンカスチーズ探れちゃった〜♪」

るびい

「今までで一番黄ばんで、臭くって♪」

るびい

「クン♪ クンクン♪ んほお〜♪ くっさ〜い♪ このチンカスチーズ臭すぎだよお♪」

るびい 「今まで食べたどんなお料理よりも臭くて、汚くて」

るびい 「でも街の平和の為には負けてられないもんね！」

るびい 「ん、お兄ちゃんのチンカスチーズ、いただきまゝす♪」

るびい 「はあゝむ♪」

るびい 「くちゆくちゆくちゆくちゆ♪」

るびい 「んむう♪ んぷっ！ うえゝゝ！」

るびい 「お兄ちゃんのチーズ、臭すぎて……うえ……ん、あうゝ……♪ 上手にごっくんできないよお」

るびい 「うっぷ……うえ……やあ……チンカス臭すぎい♪ 臭すぎてるびいのベロが痺れちゃう♪」

るびい 「ん、あむ、くちゆくちゆ……ん、んむうゝ」

るびい 「やっぱりチンカスだけじゃごっくん出来ないからあ、お兄ちゃんの耳カスと混ぜ混ぜして、チンカスミックスジュースにしちゃうね？」

るびい 「はあむ♪」

るびい 「んぷ♪ じゆるるる……ん、ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

「んゝ、くちゆくちゆくちゆくちゆく ぐちゆく
ちゆくちゆくちゆく」

「んへへゝゝ お兄ひやゝん♪ チンカスミックス
ジューチュウ♪ んゝ♪」

「く♪ く♪ く♪ く♪ く♪」

「んぐう♪ き、来たあ♪ んほお♪ 、お♪ 、お
♪ 、おゝ♪」

「これえ♪ くっさいチンカスジュースでイグウ
♪」

「やだやだあゝ♪ るびい、チンカス何かに負けた
くないのにい♪ でもダメエ♪」

「やあ♪ イグう♪ チンカスでイグう♪ チンカ
スでイっちやうう♪」

「イグう♪ イグイグイグイグイグイグイグう
ゝ♪」

「おまんこイっきゆうううううううゝゝゝゝ♪」

「んっつきゆうううううううゝゝゝゝ♪」

「んほおゝゝ♪ 、お♪ 、おゝ♪」

「あああゝゝ♪ やあん♪ るびい、またチンカス
に負けちゃったゝ♪」

るびい 「お兄ちゃんってば、おちんぽは雑魚雑魚なくせにい♪ チンカスだけ強すぎだよ♪」

るびい 「うゝ♪ チンカスしゅゝいよお♪ チンカス気持ちいいよお♪」

るびい 「やあん♪ チンカスう♪ 汚くてくっさゝいおチンカスうゝ♪」

るびい 「んゝちゅ♪ えへへ♪ るびい、このままだとお兄ちゃんのチンカスに恋しちゃうかもお♪」

るびい 「ねえねえお兄ちゃゝん♪ もしお兄ちゃんがるびいの事チンカスでイカせ続けてくれたらあ…」

るびい 「るびい、お兄ちゃんだけのチンカス魔法少女になってあげてもいいよ？」

るびい 「毎日お兄ちゃんの汚い包茎おちんぽのお世話をし
て、チンカス食べてあげるの♪」

るびい 「でもでもお♪ ちゃゝんとるびいの事、お兄ちゃんのチンカスおちんぽでイカせられたらの話だよ？」

るびい 「確かにお口でこつくんした時はるびいが負け
ちゃったけどお♪」

るびい 「おまんこでなら絶対負けないんだから♪」

るびい

「るびいのキツキツメスガキおまんこですぐイっちゃわないうに、せいぜい頑張ってみてね？
お兄ちゃん♪」

	トラック05
るびい	「きやんっ♪」
るびい	「やあ〜ん♪ お兄ちゃんってば強引だよお♪」
るびい	「なあに？ もしかしてこのままるびいの事レイプしちゃうのお？」
るびい	「魔法少女を無理矢理脱がしてえ♪ 嫌がるるびいを押さえつけてえ♪」
るびい	「お兄ちゃんの汚いチンカスおちんぽ勃起させてえ♪」
るびい	「るびいのキツキツおまんこ犯しちゃうのお？」
るびい	「やあ〜ん♪ 怖いよお♪ るびい犯されちゃうう♪ 変態不審者さんに犯されちゃう〜♪」
るびい	「ん、ああん♪」
るびい	「やあ♪ お兄ちゃんのおちんぽ、入ってきて……ん、やあ♪」
るびい	「やだやだあ♪ 本当に奪われちゃう♪」
るびい	「るびいの初めて♪ るびいの処女♪ 変態不審者さんに奪われちゃうう♪」
るびい	「嫌あ♪ 嫌々嫌々あ♪」

るびい 「やあ♪ お兄ちゃんってばあ♪ いきなりお猿さ
んみたいにパンパンしちゃってえ♪」

るびい 「んん♪ 、お♪ 、お♪ 、お♪ 、おおん♪」

るびい 「え、えへへ♪」

るびい 「そんなにるびいのおまんこ気持ちいいのお？」

るびい 「るびいの事お♪ レイプ出来て嬉しいのお？」

るびい 「んぐう♪ はあ、はあ♪ そつかあ♪ 嬉しいん
だあ♪」

るびい 「あはは♪ お兄ちゃんは本当に最っ低な人だね♪
このロリコン♪」

るびい 「どうせお兄ちゃんの雑魚ちんぽなんて、ん♪ す
ぐ射精しちゃうんだから、ん♪……えい♪」

るびい 「ほおら♪ さっさとイっちゃえ♪」

るびい 「るびいの魔法少女おまんこで敗北射精しろお♪」

るびい 「雑魚雑魚精子ぴゅっぴゅしろ♪」

るびい 「それぞれ♪ 雑魚雑魚ぴゅっぴゅ♪ 雑魚雑魚
ぴゅっぴゅ♪」

るびい 「って、んほ、おー!? 、お♪ 、お♪ 、お♪ 、お♪ 、お
♪ 、お♪ 、お♪ 、お♪ 、お♪ 、お♪」

るびい 「ん、おおお♪、お♪、お♪、お♪、お♪、
♪」

るびい 「やあ♪、これいやあ♪」

るびい 「お兄ちゃんやめてえ♪」

るびい 「るびいのおまんこ♪、チンカスでいっぱいにな
いでえ♪」

るびい 「お兄ちゃんのチンカスでマーキングしないでえ
♪」

るびい 「ん、おおお♪、はぐう♪」

るびい 「嫌あ♪、イカされちゃうう♪、キモ豚精子でイカ
されちゃうう♪」

るびい 「やだあ♪、やだやだやだやだあうう♪」

るびい 「レイプでイクのやだあ♪、キモ豚精子でイクのや
だあ♪、チンカスぴゅっぴゅ嫌なお♪」

るびい 「おほおおっ♪」

るびい 「お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

るびい 「あぐうう♪、いつちゃううう♪、お兄ちゃんみた
いな変態さんにイカされちゃうう♪」

るびい 「お♪、お♪、やっ♪、ダメッ♪」

るびい

「ザーメン来るッ♪ 中出し来るッ♪」

るびい

「んほお♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

るびい

「イグ♪ イグ♪ イグ♪ イグ♪ イグ♪ イグ♪
♪ イグ♪ イグう♪」

るびい

「イグイグイグイグイグイグイグう~~~~
♪」

るびい

「いっつつううつつう~~~~っ♪」

るびい

「んっきゅうう~~~~♪」

るびい

「あッ♪ あぐっ♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お
ほお~~~~♪」

るびい

「んぐ♪ はあ、はあ♪ やあ♪ るびいのおまん
こに♪ ザーメンぴゅっぴゅされてるよお♪」

るびい

「やあ♪ やだやだあ♪」

るびい

「お兄ちゃんに孕まされちゃう♪ ロリコンお兄
ちゃんの赤ちゃん孕まされちゃうよお♪」

るびい

「はあ、はあ……やあ……勝手に中出しなんてえ、
絶対許さないんだからあ……♪」

るびい

「って、え……っ？」

「う、嘘……おちんぼ、まだ大きいまま……って、え?」

「お、お兄ちゃん? ちょっと待って? 今は絶対にダメ……」

「って、おほおおっ!?!」

「ん、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

「そ、そんなにや♪ るびい、今イったばかりなのに♪ ん、お♪ おまんこホジホジされちゃ、あぐう♪」

「お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

「んぐううう♪ イグうう♪ こんなのすぐいつちやうの、お♪」

「ダメえ♪ お兄ちゃん許してえ♪ るびいっちやうからあ♪ 連続アクメしちやうからあ♪」

「んほお♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

「お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪、お♪」

るびい 「やあ♪ またイグう♪ 雑魚まんこイグうう♪」

るびい 「イグイグイグイグイグイグイグうう♪」

るびい 「んっぎゅううううううっ♪」

るびい 「んひゃあああうう♪」

るびい 「って、んほおおお♪」

るびい 「嘘うそおううう♪ イってるのにおちんぽ止まらないよお♪」

るびい 「やあう♪ 無理い♪ 許してえ♪ お兄ちゃん許してえ♪」

るびい 「全部謝るからあ♪ お兄ちゃんを馬鹿にした事全部謝るから許してえ♪」

るびい 「んほおお♪ 、お♪ 、おう♪」

るびい 「そうなのお♪ るびいみたいなメスガキ魔法少女があ♪ お兄ちゃんに敵うはずなかったのお♪」

るびい 「お兄ちゃんみたいな素敵なおちんぽにい♪ おちんぽ様にい♪ 勝てるはずなかったのお♪」

るびい 「それなのにい♪ お兄ちゃんの事いっぱい挑発してえ♪ 生意気な事いっちゃってごめんなさうい♪」

るびい

「って、んほおお♪ お♪ ん、お〜♪」

るびい

「ああん♪ いいよお♪ お兄ちゃ〜ん♪ もっとお仕置きしてえ♪」

るびい

「生意気な事しか言わない、悪〜いメスガキるびいを〜♪」

るびい

「お兄ちゃんの素敵なチンカスおちんぽ様でワカらせてえ♪」

るびい

「るびいのクソ雑魚おまんこいっぱいレイプしてえ♪」

るびい

「お兄ちゃんだけのチンカスオナホールにしてえ♪」

るびい

「おお〜〜〜♪」

るびい

「お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪」

るびい

「お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪」

るびい

「お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪」

るびい

「お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪ お♪」

るびい

「イグイグイグイグイグイグううう」

るびい

「おまんこイっぎゅうううううううう」

るびい

「おっっほおおおおおうううう」

るびい

「ん、おううう、お、おう」

るびい

「あぐっ♪ やあ♪ おちゃんぽ様あ♪ チンカス
ぴゅっぴゅしゅいのお♪」

るびい

「ん♪ はあ、はあ♪ ああ♪ おほお……♪ 中
出し嬉しい♪ お兄ちゃ〜ん♪ お兄ちゃ〜
ん♪」

るびい

「るびいの生意気おまんこお♪ お兄ちゃんに敗北
しちゃったのお♪」

るびい

「メスガキ魔法少女、チンカスるびいはあ♪ お兄
ちゃんだけのチンカスオナホールになっちゃった
のお♪」

るびい

「えへへ〜♪ お兄ちゃんがるびいのオナホでチン
カス掃除したくなったらいつでも呼んで？」

るびい

「すぐに魔法で飛んできてチンカスお掃除してあげ
る♪」

るびい

「えへへ〜♪ お兄ちゃ〜ん♪ だ〜い好きい♪
ん〜……ちゅ♪ えへへへ〜♪」